

■黒田清輝 洋画家。法律学習で渡仏し画家に転向、(白馬会)結成、外光派風作品で大きな影響を与え、裸体画問題で苦勞。

くろだきよてる

薩長同盟・1866= 薩摩藩士黒田清兼の長子として鹿児島に生まれた。

明治維新・1868= 2歳:

伯父黒田清綱の養子となる。清綱は元老院議員、歌人としても知られた。

学問のすすめ1872= 6歳: 上京。外務省附属の学校で「国史略」、欧文習字を学ぶ。

明治6年政変 1873= 7歳: 三番小学校に入学。

初の民間工場1875= 9歳:

JALハイジャック・1977=11歳: 名を清輝と改める。平川学校に入学。

大久保暗殺・1878=12歳: 高橋由一の門人について日本画・鉛筆画・水彩画を学ぶ。

1880=14歳: 元平川学校校長の塾で漢学を学び、二松学舎に通学。神田共立学校に入学、のち築地英学校に転じる。

明治14年政変1881=15歳:

岩倉具視没・1883=17歳: 個人教授でフランス語を学び、

秩父事件・1884=18歳: 法律勉強のために渡仏。

法律大学校に入るため、塾などで準備学習をしているうち、

帝国大学始・1886=20歳: パリ滞在の山本芳翠らと知り合い、画家になることを勧められ、

国民之友始・1887=21歳: 法律大学校に正式入学するも、絵画修業と両立できず、退学して絵画に専念することを決意。

初の対等条約1888=22歳: R. コランに師事し、アカデミー・コロロッシで学ぶ。

帝国憲法発布1889=23歳:

各地に小旅行。模写などをして学習。

帝国議会始・1890=24歳: パリ郊外のグレー村に滞在し、「読書」「婦人像(厨房)」などを制作。

足尾鉍毒始・1891=25歳: 「読書」がサロンで入選。

大本教・1892=26歳: 明治美術会に参考品として「読書」を出品。

郡司千島探検1893=27歳: パリのサロンに「朝妝」(焼失)を発表して入選、帰国した。帰国後最初の作品は「舞妓」。

日清戦争始・1894=28歳: 滞仏時代からの僚友久米桂一郎と[天真道場]を開設。コランに学んだ画風はフランス・アカデミズムと印象派的表現を折衷したもので外光派とよばれ、既存の明治美術会系の硬化した写実主義的作風と対立、旧派に対して新派、陰影部の描写法から脂派に対して紫派ともよばれた。日清戦争に従軍。

日清戦争終・1895=29歳: 帰朝。第4回内閣勲業博に「朝妝」を出品、裸体画論争を起こす。

白馬会・1896=30歳: 久米や若い画家らとともに(白馬会)を結成、東京美術学校西洋画科が新設され、指導を委嘱される。

八幡製鉄始・1897=31歳: 「智・感・情」「湖畔」などを発表、(白馬会)の若い画家たちに影響を与え、明治期洋画の秀作を生み出す。

子規句歌革新1898=32歳: 教授に就任。外光派の身近な主題、印象派的な明るい色調の作風は、日清戦争後の国内社会の変化、文芸思潮、自然観の進展によく適合して一般に受け入れられ、(白馬会)が洋画界の主流を形づくるとともに、その中心的存在として重きをなして行く。

ピア/国産化・1900=34歳: 美術制度や教授法研究のため、フランス出張を命じられ、パリ万博に「智・感・情」を出品し銀賞、

田中正造直訴1901=35歳: イタリア・ドイツ・ロンドンを旅行して帰国。

教科書疑獄・1902=36歳: 文部省の普通教育に関する図画取調委員となる。

日露戦争終・1905=39歳:

韓国反日暴動1907=41歳: 文部省美術展覧会(文展)開設に尽力し、以後、審査員、洋画部の中核となって活躍。

韓国併合・1910=44歳: 帝室技芸員に任ぜられた。

大逆事件判決1911=45歳: (白馬会)解散。

明治天皇没・1912=46歳:

大正政変・1913=47歳: 国民美術協会会頭。

ロシア革命・1917=51歳: 養父が没して、爵位を継ぎ、

大暴落・1920=54歳: 貴族院議員に当選、子爵議員研究会に属して政治家としても活躍した。

原敬首相暗殺1921=55歳:

水平社結成・1922=56歳: 森鷗外死去のあと帝国美術院院長に就任。日仏交換日本美術展、現代フランス美術展などの開催に尽力、

関東大震災・1923=57歳: レジオン・ドヌール勲章。日本工芸協会総裁。狭心症を發し、

護憲三派圧勝1924=58歳: 勲二等旭日重光章。フランス現代美術展の裸体作品出品の処置に奔走し、喘息を併發して、没した。